

日教組第108回定期大会

9月14・15日に日本教育会館で開催され、高教組からは代議員3人（副委員長・書記長・書記次長）と傍聴1人（委員長）の4人が参加しました。全国から出席した代議員は221人で、女性参画率は32.6%でした。

2年に1度の定期大会で、来年度までの運動方針が決定されました。修正案は42本提出されましたが、趣旨受け入れ、採択に付された結果の否決等により、本部原案の通り承認されました。日教組の運動方針については、新聞を全員に配付していますのでご覧ください。

高教組は高校再編と大学入試共通テストに関する内容で討論に参加しました。今定期大会では、大学入試共通テストに関する討論がめだちました。各県の高教組を中心にそれぞれの地域における多くの課題が示されました。この問題については、高教組も現場の声を聞きながら運動を広げていく予定です。高教組は今後も日教組方針に基づいて、全国連帯で運動をすすめていきます。



日教組実習教員全国集会

7月27・28日、日本教育会館で日教組実習教員全国集会が開催され、岩手高教組からは13人が参加しました。

1日目は人事評価制度をメインとし、明星大学教育学部の樋口修資教授より「人事評価制度について考える」と題した講演がありました。講演では、人事評価の人材育成基本方針で“職員の士気の向上”と謳っているがそれは妄想に過ぎず、教職員の内発的モチベーションをかえって低下させる「アンダーマイニング効果」を引き起こす恐れがあり、成果主義的な人事評価は学校教育活動に欠かせない教職員の同僚性・チームワークを損なう恐れがある…という指摘がありました。全体会での報告交流では、この制度

が導入された神奈川県から、職場の分断を許さない立場でのとりくみ、モチベーションアップにつながる対応が重要であることなどが報告されました。



2日目は分科会を行い、岩手高教組からは3本のレポートが出され、植木飛鳥さん（平館高校分会）と高野千尋さん（前沢明峰支援学校分会）が発表しました。参加された皆さん、お疲れさまでした。暑い中の集会でしたが、今年も交流を深め全国の情勢を知ることができた有意義な2日間でした。